

芙蓉会会報

第 8 号



70周年記念式典

70周年記念祝賀会



創立七十周年記念によせて

芙蓉会会長 石渡富美子

明倫学園創立七十周年記念式典並びに祝賀会が、平成五年十一月十八日講堂において催されました。来賓として高野山金剛峯寺座主竹内崇峯^{（おのの）}親下を始め、県内真言宗寺院、各学校関係者その他多くの方々の出席を頂きました。

式典に先立ち、生徒による「散華の舞」が舞われ厳かな雰囲気の中に式が始まりました。般若心経、佐伯校長の式辞、御来賓の祝辞、その後、七十周年記念事業の一環として明倫賛歌（作曲黛敏郎。作曲岩崎巖）「えんじの旗」が発表され生徒達の明るい歌声が講堂いっぱいに広がりました。

午後、祝賀会が横浜プリンスホテル「桜の間」にて開催され、来賓も四百七十名と賑やかな楽しいパーティーとなり、その中で一際華やかさを添えていましたのは、芙蓉会のメンバーでございました。多忙にも関わらず百名近くの方に出席して頂き、各テーブルでは恩師を囲み楽しい会話が弾んでいたり、何十年振りかで会った友達、懐かしい顔、顔、顔学生時代に帰って賑やかなお喋りが続いています。アトラクションには、明倫学園卒業の民謡歌手、高橋キヨ子さんが出演してくださいまして、その素晴らしい歌声に会場内は暫しの間聞き惚れていました。和やかな雰囲気の中で話は尽きないようでしたが又の再会を約して楽しい会は散会となりました。

次に第7回会報でお願いを致しました寄付の件ですが、五三七名の方々よりご理解とご賛同をいただきまして本当にありがとうございます。皆様のお気持ちを学園に伝えることが出来たことをここに報告いたします。又、心優しい励まし言葉や、近況など添書きをしてくださった方も多く心のふる里でもある学園を忘れずに温かい気持ちで伝わってきまして役員一同大変に嬉しく読ませていただきました。その折り記念誌を申し込まれた方には送らせていただきました「七十年のあゆみ」は飯島光孝先生の編集による大変素晴らしい記念誌です。これを機に新しく生まれ変わった学園に出掛け下さいませ、九月の明倫祭には綺麗になった同窓会室でお待ちしております。

創立七十周年記念式典を終えて

学校長 佐伯 隆定

昨平成五年は、わが明倫学園にとつて、忘れることのできない年になりました。申すまでもなく、創立七〇年の記念行事があつたからであります。学校はかねてから高校生への減少期を目前に、学校の再生と活性化をはかつて、何か手を打たねばならぬと考えていました。社会全般の小子化傾向は止まることを知らず、学校の活性化対策として、そう簡単に見出せるものではありません。そこへたまたま持ち上がったのが、七十周年の記念事業でした。私達はこれを機に、学園の内外を整備し、教育環境を整えて、学校をアピールしようと呼ぶことになりました。それでは一体何から始めるか、いろいろ議論を重ねた末、比較的手の着け易いグラウンドの改修から始めることにしました。限られた時間とできるだけ授業に支障の無い方法で、工事をすすめなければなりません。グラウンドの場合も、比較的使用頻度の少ない、冬期を中心にを行いました。以下今回の記念事業の工事を年度別にみると次の如くです。

平成三年度 グラウンド改修工事

四年度 前庭造園、校門及び外壁建設

五年度 講堂、本館管理棟

六年度 家庭科教室、作法室

生徒玄関等

幸い、工事も予定通り消化し、昨年十一月には盛況の裡に七十周年の記念式典を挙行することができました。高野山から竹内崇峯^{（おのの）}校長親下をはじめ、中等学校校長先生、寺院、会社関係、講演会、同窓会、PTAの役員など式典祝宴延べ数で、千人に余る方々の御出席をいただき、広く明倫学園を見ていただくことができました。またこれを機に採用した、森ハナエさんのデザインによる新制服が好評を得て、今春は五五〇名に余る新入生を迎えることができました。学校としては所期の目的を達し、その成果を心から喜んでおります。

しかし学園を囲む社会的条件は依然として厳しく、時代の変化は目まぐるしく、その流れを見極めることすら容易ではありません。この場合、同窓生の社会的活躍は在校生の勇氣と自信を与えるのみならず、私達学園関係者にとつても、大きな心の支えであります。皆さんの御活躍を祈ります。

御教えに感謝

高女20回卒業 松野 貴美江

心に明るく「倫」をもつての明倫学園が創立七十周年を迎えられましたことを心からお慶び申し上げます。

総本山金剛峯寺座主、真言宗管長第僧正、竹内崇峯様を初め御光名高い方々と創立七十周年の式典に。プリンスホテルでの会食パーティーに御同席させて頂く事ができこの上なく光栄でした。

いつの世も限りなく重要に拡がる教育の世界、時政の変化、環境の変化・年齢や生活の変化、によって一人一人の性格に与える影響の大きさ・とく十五、六、七才の多感な時期に理事長先生をはじめ校長先生教職員の皆様それを支える校務に携わる人達、「七十年のあゆみ」を見て知る高野山金剛峯寺、横浜真言宗寺院有志・後援会経営関係者の労苦、篤志家の並々ならぬ協力が有ったと記されていました。この苦難と試練の長い歴史を乗り越えてあらゆる明倫学園の繁栄が出来たことをすべての人に深く感謝致します。

この式典に重なり私の思い出の一つとなる昭和二十一年第一回明倫祭の出来事が昨日のように思い出されました。何人かの僧が錦の頭巾と衣が真赤にはえ、磬(読経の際に打ち鳴らす仏具)の音と読経が・静々となんとも神秘的な光景を想い出す事が出来ることは人生の財産の一つともいえます。自

然に数々の御教えを心の中に教えられた日々は卒業生の一人として・太陽が東から西に沈むと同じくする「生」あるものの道である日まで忘れることなく、厚く御礼申し上げます。

明倫学園七〇周年に参加して

18回卒業 秋本ひろみ

今私の手元には、創立七〇周年記念にいただいた「明倫学園七〇年のあゆみ」があります。前回に出た明倫学園五十年史より立派なそして、重みのある本です。この中の一枚一枚の写真、先生方のお名前がとても懐かしく一変に明倫の生徒に戻った気持ちです。私は昭和三十八年に明倫学園中学校に入學、昭和四十二年高等学校を卒業しました。そして四十九年から平成元年三月迄、図書館に本を納入する仕事の為、来校しておりました。

都合二十一年間明倫に縁を戴き七〇年の三分の一弱を知っていると思うと感無量です。平成五年十一月十八日の記念式典・横浜プリンスでのレセプションに招待を受けたときは、私などいいのかなと思いましたがこのような機会は一回しかないと思うと出席の返事を出しました。そして待ちに待ったその日、久しぶりに保土ヶ谷駅からあの明倫坂を歩いて学校へ行きました。左右の景色は、多少変わったものの、あのなんともいえない坂道、この坂を雨の日も風

の日も四季を追って六年間結構まじめに通いました。学校の校舎は私達が卒業する寸前に講堂が出来ました。それ以来の式典参加です。坂をのんびり歩いてしまったのでちよつと遅刻してしまい、般若心経をうかがう事が出来ませんでした。

たが私達が何度も参加したおごそかな式典風景でした。横浜プリンスでのレセプションは、懐かしいあの先生、この先生のお顔を拝見しながら聞いた素晴らしい高橋キヨさんのスピーチに、バイキング形式の食事手も手が止まり、「奥山さん(旧姓)は変わってないわね声ですぐわかりました。」などと先生方にいわれ、楽しい時間はあっという間に過ぎてしまいました。私達の担任であった佐伯先生が校長先生となられ、いつも白衣を着ていた、村本先生が奥様になられ御結婚後始めてお会いしました。又中学の担任であった田村紀子先生の元気なお姿とお肌の艶、「まだ使ってますよ。ボンズ」を……のひとことで私は十二才にひと戻り、同級であり仕事でも助けて戴いた安田先生、佐野先生、事務の先生方にも会えて楽しかったです。でもここにいらつしやるはずの小倉校長先生、中村俊平先生、卓球部顧問の田中光一先生は他界され、お姿は、目に浮かべるだけです。特に小倉校長先生はお会いするのを楽しみにしていたら急に訃報を受け悲しい別れとなりました。でも明倫を通し私が学び得た物が子供を通し、七〇年、百年と種が大

木となり又種を生みだす、そんな学校の発展を祈りつつ、つたなくまとものない文章に思いを書きました。

70周年記念祝賀に出席して

37回卒業 小椋千佳子

卒業して以来学校と、しばらく遠ざかっていた私に、今回機会があり70周年記念祝賀会に出席させて頂くことになりました。お世話になりました先生方、お友達にお会いするのも久しぶりでしたのでお話を頂いた時にはなんだかドキドキしてしまい、とても懐かしい気分になりました。アルバムを引き出しながらも色々な所に行つた楽しい思い出などがよみがえり、中でも私にとって一番の思い出で深く印象に残っているのは、部活動でした。辛い事もありましたがそれ以上に充実した日々を送る事ができましたし、皆と一緒に泣いたり笑ったり、試合ともなれば先生と私達が一体になり必死になつてボールを追掛けていました。そしてその中には、様々な想いや感動などがありました。こうして書いてるうちにこの間の事のようにハッキリとよみがえってきます。当日、そんな沢山の思い出のあった学校の祝賀会に出席させて頂いた私は、新鮮な気持ちで色々な方のお言葉や、70周年という事で歴史のある素晴らしい学校で学べたという事の有難さをあらためて実感しました。この立派な祝賀会に出席できた事を感謝致します。

「学生時代の思い出」

第37回卒業 佐藤 恵子

私が通った三年間は、思い出がたくさんあります。人見知りをする私は自分から声をかける事ができず、とまどっているところを周りから声をかけてくれ、友人が多くできました。女子校という事もあり、自分を正直に出せ、いつでも本当の自分でいられ、だから毎日気分が非常に穏やかに過ごせることができました。でもあの坂道だけは、どうにもかならないものかと常に思いながらも……三年間の雨の日も雪の日も通い続けてしまいました。(笑)——たしかに雪の日に坂道の途中途中で先生方がHELPで立っついて、手を借して頂いた事がありましたが、今でもその風習は残っているのでしょうか？懐かしいですね。

私の歴史は七〇年間の中の一つの三年間でしたけど、とても充実して、中身の濃いものになりました。

おくれましたが、七〇年記念祝賀会はとても素晴らしいもので感動しました。家に戻ってから「七〇年のあゆみ」を読み、また感動しました。



クラブ紹介

庭球部

部員数35名
佐野 宏通
小岩 清

現在、部員総数37名(3年17、2年13、1年7)にて活動しております。昨年迄は常時40名程度でしたので、これでもやや減ってはいますが依然としてかなりの大所帯であります。この為練習時間が十分確保出来ず、ボール等も不足する等の悩みを抱えておりますが、この様な中、昨年は団体戦において、本年は個人戦において二組が関東大会に出場する戦績を残しております。中学時代決して有名とは云えなかった選手達が関東大会、全国大会へと夢をふくらませて毎日ボールを追っております。限られた条件の中ですが、来年度以降全国大会へ名乗りを上げられます様頑張っていきたいと思っております。

陸上部

部員数15名
高橋 弘之
曾根 宥泉

私が顧問になり9年目の今年、早稲田大学時代箱根駅伝で活躍した曽根宥泉先生を顧問にむかえ、二人三脚の指導となりました。現在部員数は15名と少ないですが毎日充実した練習に、汗を流しています。今までの主な戦績は昭和61年、県新人戦100m4位、平成元年、県新人戦200m5位、2年、県高校

バレーボール部

部員数24名
浜田 将
三好 直幹

私達バレーボール部は、新チームとしてスタートした現在、秋の新人戦に向け休日を返上して練習に励んでおります。ここ数年、シード校の厚い壁に県大会への出場を阻まれて来た我々としては、秋には「我々がシード校となつて県大会への出場を獲得するぞ!」の意気込みで頑張っています。そう簡単に達成されることではありませんが、今までの甘えを一掃し、部員一同一丸となって勝負する覚悟でおります。秋には皆さんに良い報告が出来るよう頑張りますので、何卒宜しくご声援くださいますようお願い申し上げます。

調理部

部員数58名
村上 由美子
有田 英子

調理部は、クラブとしての活動が古く、その内容は、文化祭を中

心に行っています。

現在、部員は58名で三年生を中心に、毎週月曜日と金曜日に活動しています。月曜日は実習、次の献立決め、金曜日は、実習のプリント配布、買い物班の確認とゴミ当番の確認と実習に必要な事を行っています。生徒間の話し合いはすべて金曜日に行い60人近い生徒が仲良くしています。実習内容は、お菓子作りから惣菜まで、文化祭の時のクッキーは評判が良いです。よ、このように幅広く楽しくクラブ活動をしています。

剣道部

部員数16名
小西 孝裕
大沼 行正

顧問の斉藤一先生が、春休みの稽古を最後に顧問を退任されました。斉藤先生始め最上良一先生の熱心なご指導のもとに剣道部が発展し、日頃の稽古に、又は大会に参加し活躍して居りました。これ偏に斉藤先生のご尽力のたまものと感謝して居ります。此の度、後任顧問として大沼先生と小西が就任いたしました。よろしくお願い申し上げます。運動部の練習は、肉体的にも精神的にもいろいろ厳しさがあると承知して居りますが、剣道というスポーツは、すくなくとも日頃の稽古を通して自分自身を戒め、或

卓球部

部員数10名
飯塚 王章
大高 良之

現在、卓球人口(特に女子)が年々減少しているのですが、我校もそれにあてはまり、今年は三年生合わせて十人という少ない人数で活動しています。競技の性質や施設の関係上、人数があまり多すぎても困るのですが、もう少し部員がいたらなと思います。

吹奏楽部

部員数31名
浅野 由里
村岡 希公子

昨年度より23回卒業生の村岡と27回卒業生の浅野の2人が顧問となりました。また、10年間旧西ドイツに留学し、その間日本人として初のソリスト称号に合格したプロのチューバ奏

ワンダーフォーゲル部

部員数7名
北村 猶治
佐久間 勇

今年のは標名山へ毎年、夏と冬に山行計画を立てて登っています。5年前の白馬岳での事故以来、アルプスからは遠ざかっていますが、地球の出っぱりをめざして頑張っています。一緒に登った人から、年賀状が届いたりすると、その時のことを思い出して、今頃はこうしているかなと想像したりします。今年のは標名山へ出かけてきます。会報が届く頃には、その思い出ができていと思います。とてもオールドな人たちは知らない事ですが、計画書の中に、比高図や概念図を自分たちで作って苦労したり、食料計画などでは、北村先生の助言が活躍しています。私は、相変わらずのスタイルで歩いて楽しんでます。

同窓会・おふくろの味
復活!!

明倫祭の御案内

文化祭 9月22日(木) 同窓会控室(図書館)

おしるこ模擬店(北円型2階)

体育祭 10月8日(土) 雨天の場合延期あり

◎同窓会では今年はおしるこの模擬店を行います。

◎車で来校は御遠慮下さい。

◎同窓会室が、新館3階体育館前となりました。

(どうぞご利用ください。)

来校をお待ちしております。



◎ ◎ ◎ 御注意

最近同窓会を名乗り住所、勤務先等の個人情報を得る為の電話があるそうです。現在同窓会では、このような事は行っておりませんので、御注意下さい。

平成5年度 明倫学園同窓会決算報告書

H6. 3. 31
(単位 円)

収入の部	予算額	収入額	備 考
前年度繰越金	12,688,093	12,688,093	
5年度会費	1,905,000	1,905,000	@¥5,000×381名
預金利息	400,000	372,526	前年度分
その他の収入		154,430	文化祭収益・寄付等
合 計	14,988,093	15,120,049	

平成6年度 明倫学園同窓会予算書

H6. 4. 1
(単位 円)

収入の部	予算額	備 考
前年度繰越金	12,967,462	
6年度会費	2,765,000	@¥5,000×553名
預金利息	400,000	定期貯金・普通貯金
合 計	16,132,462	

支出の部	予算額	支出額	備 考
記念行事費	1,200,000	20,000	式典生花代
会議費	250,000	131,823	幹事会費用など
接待費	60,000	40,612	来賓用お車代
慶弔費	100,000	70,000	卒業式生花代
クラブ援助費	300,000	320,000	ハンド・テニス・スケート
明倫祭費	200,000	192,834	明倫祭活動費(模擬店)
通信費	800,000	1,076,228	会報送付費用など
同窓会会報費	230,000	181,830	印刷費
退職者記念品費	100,000	33,320	退職の役・職員に対し
名簿整理費	250,000	65,114	コンピュータ入力訂正費用
予備費	11,498,093	20,826	同窓会室移動の費用
合 計	14,988,093	2,152,462	

収入の部	予算額	備 考
会議費	200,000	
接待費	60,000	来賓用お車代などの接待費用
慶弔費	100,000	卒業式生花代など
クラブ援助費	350,000	各クラブへの援助のため
明倫祭費	200,000	明倫祭活動費(模擬店参加)
通信費	1000,000	会報送付費用など
同窓会会報費	270,000	会報印刷費用
退職者記念品費	100,000	退職の役・職員に対し
名簿整理費	200,000	コンピュータ入力・訂正費用
予備費	13,652,462	定期貯金及び普通貯金に預け入れ
合 計	16,132,462	

残 額	0	12,967,462
-----	---	------------

編集・発行人
学校法人 明倫学園
芙蓉会
横浜市保土ヶ谷区岩井町447番地
〒240 TEL731-4361(代)

印刷所
有限会社 渡辺商会
〒240 横浜市保土ヶ谷区岩井町1-6-7
TEL(045)331-3885 FAX(045)341-9047

へお知らせ
いつもながら当会の活動に、ご協力、ご支援をいただきありがとうございます。
毎年発行しております芙蓉会会報も早や八号をお届けする事になりました。幹事一同感慨もひとしおでございます。
残念なことに、会員の皆さまに発送されました会報も、住所不明でもどる数も少なくありません。ご住所、お名前の変更がございましたら、明倫学園宛ご連絡お願い致します。
尚、ご連絡の際には、卒業年度クラス、(個人番号)のわかる方は個人番号(生年月日を必ずご記入ください。
コンピュータ入力による手続きをより正確に行なう為にも皆さまのご協力宜しくお願い申し上げます。
※昨年の同窓会役員改選について「会報第七号」で掲載しましたが、一部誤りがありましたのでお詫びして訂正させていただきます。
○校内幹事 菊地美智子(13回卒)